Craven's mansion was far larger than Mary's house and it also had a huge garden surrounded by hedges.

When Mary was led to Craven's room, Craven was reading a book, sitting in a chair in front of a fireplace.

"Umm...nice to meet you."

As Mary greeted Craven with a bow, Craven then, closed his book and stood up from his chair. His shoulders were hunched, and he was using a cane, perhaps due to a bad leg.

"...So, you are Mary. You came all the way here. You must be tired from the long journey."

"No, I'm fine."

"From today on, this will be your house. I know you must have had a tough time back there, so you take your time here to soothe both your mind and body. I'm often away from home. From tomorrow I'll be already gone for a while, staying overseas. If you need anything, just ask my servant, Martha."



"...Oh, and one more thing. You are free to use the rooms inside this mansion but you cannot enter the place that's locked."

"Alright."

inside the closet."

Mary lost her parents due to an illness and ended up being taken in by her wealthy uncle, Craven.

The next morning, as Mary woke up in her room, the young female servant was about to light a fire, crouching down before the fireplace.

"Good morning. So, you're Martha, aren't you?"
"Good morning, missy. Please get up now and have your breakfast. Your change of clothes is

"Aren't you going to help me change clothes?"



クレブンの やしきは、メアリーが すんでいた いえより はるかに おおきく、いけがきに かこまれた、 ひろい にわも ありました。 メアリーが、クレブンの へやに とおされると、 クレブンは だんろの まえの いすに こしかけて、 ほんを よんでいました。

「あの・・はじめまして」

メアリーが ちょこんと おじぎをすると、クレブンは ほんを とじて、いすから たちあがりました。 すこし せなかを まるめ、あしが わるいのか、 つえを つかっていました。

「・・きみが メアリーか。よくきたね。 ながたびで つかれたろう」 「いいえ。だいじょうぶです」

「きょうから ここが きみの いえだ。むこうでは いろいろ あったと おもうが、ここで ゆっくりと、こころと からだを やすめなさい。わたしは いえを あけることが おおい。 さっそく あしたから、しばらく がいこくへ いって るすに する。なにか あったら、めしつかいの マーサに ききなさい」



「・・ああ、それと もうひとつ。 この やしきの へやは じゆうに つかって かまわないが、 カギの かかっている ばしょに だけは、 はいっては いかんぞ」 「わかりました」

メアリーは、りょうしんを びょうきで なくし、 おかねもちだった クレブンおじさんの いえに ひきとられることに なったのです。

よくあさ、メアリーが じぶんの へやで めをさますと、 めしつかいの わかい じょせいが、 だんろの まえに かがんで、ひを おこそうと していました。

「おはよう。あなたが マーサ?」
「おはようございます、おじょうさま。
はやく おきて、ちょうしょくを とってください。
おきがえは クローゼットの なかに ありますから」
「おきがえを てつだってくれないの?」

